大会実施要項の確認：ルール及び試合方法など

① 日本ソフトテニス連盟ハンドブック並びに本大会の事前申合せ事項により行う。

② 試合は、Ⅰ部の決勝リーグ以降、Ⅱ部の決勝は、7ゲームマッチ、その他の試合は全て 5 ゲームマッチの3ペアの点取法とし、予選リーグを行った後、各トーナメント等を行います。

③ 3ペアに満たない場合、3試合目をオープン（負け）とする。
4 名又は 5 名のみのチーム同士の対戦で 1 勝 1 敗の場合は、第1対戦、第2対戦の得失ゲーム差で勝敗を決する。リーグ戦の場合は、第3対戦まで行う。

④ オーダー表は、1 部作成し、審判に提出する。挨拶はネット前まで前進して行う。

⑤ 予選リーグ・決勝 T 準決勝までは、相互審判とする。相互審判の場合は、整列時にじゃんけんを行い、勝者が、第1対戦と第3対戦の『主審』を担当する。敗者が、第2対戦の『主審』を担当する。Ⅰ部決勝、3位決定戦は、決勝トーナメント1回戦敗退したチームとする。Ⅱ部決勝は、敗者審判とする。

⑥ ベンチは、若番（番号が小さい方）が山側とし、得点板は、それぞれの学校で担当する。
その際、得点板が本部から見えるようにすること。（得点板の前には立たない！）
またコート横の得点盤はゲームカウントを掲示する。得点盤は若番が赤、後番が黒とします。
決勝トーナメントについては、トーナメント表の上側が若番となる。

⑦ チェンジサイズ時のアドバイスは、ベンチのところで行う。（一分以内）

⑧ サイドコーチ（フェンス外からのアドバイス）の禁止。
→保護者、応援の方へ徹底して下さい。※イエローカードの対象となります。

⑨ 正審は、大きな声でコールすること。

⑩ 副審のサインは、明確に行うこと。
「イン」のボールに対しては、原則としてサインはしない。中途半端なサインは行わない。
自信をもってはっきりとジャッジすること。主審がコールするまで上げ続ける。

⑪ 判定権限を持たないジャッジは、絶対に行わないこと。
例：副審がベースラインのアウトの判定など。

⑫ 試合終了後ジャッジペーパーと両校のオーダー表を勝った学校の代表者が本部へ提出する。

⑬ 服装：日本ソフトテニスハンドブックの規定に反しないもの。ゼッケンを必ず着用。
（新入生等の場合は代用可。代用の仕方は、要項に記載しております。）